

2022年8月4日

羽曳野市長 山入端 創 様

日本共産党羽曳野市会議員団

笹井 喜世子 渡邊 真千 南 玲

新型コロナウイルス感染症「第7波」から市民の命を守るための緊急申し入れ

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株BA. 5」系統への置き換わりの影響などから、これまで経験したことがない感染の爆発的な拡大がおこっています。7月23日には1日の陽性確認が20万人を超え、「第6波」の最多の2倍に達しました。市内にある無料検査場でも検査キットが不足しすぐに検査が受けられない、また発熱しても医療がひっ迫しており、発熱外来での受診ができない、また陽性とわかっても多くの市民が入院もできず、自宅療養が余儀なくされています。

そもそも、「第6波」で救急搬送困難事例は過去最多、死者数も1万人超えという最悪の事態となったことを直視するならば、これまでの対応への真摯な反省の上にたち、医療、検査、保健所等の体制強化に真剣に取り組むべきであり、「第7波」から市民の命を守るために、危機感をもって、以下の対策を緊急に行うよう強く要望します。

記

1. 市の保健機能の強化と共に、発熱外来を持つ医療機関への支援を行い、発熱外来の箇所を増やすなどし、すぐに診てもらえる体制をつくること。また、早期に健康観察や在宅医療が行われるよう運用を改善し、そのための財政的措置を国に求めること。
2. 発熱外来、入院治療、在宅治療、健康回復者の療養、救急医療など、地域医療機関の全体の強化と連携ができるように、医療機関への財政支援の強化を緊急に国に求めること。
3. 無料PCR検査体制を抜本的に強化し、必要な人がすぐに検査が受けられるよう、市内に臨時検査場を設置し、新規感染者数をできる限り抑制するため、必要なあらゆる手段を講ずること。
4. 高齢者等への感染を防御するために、医療機関、高齢者施設、障害者施設などで、頻回PCR検査を全額国負担で行うよう、国に求めること。また、抗原検査キットを授業所、学校、保育所などを通じ国民全体に配布するよう国に求め、風邪症状のある場合の積極的な活用を呼びかけること。
5. ワクチン接種は必要とする人への接種が、円滑に進むよう対策をとること。
6. コロナ感染に関する市の相談窓口の体制を充実するため職員の増員をすること。
7. 自宅療養者が増える中、市独自の食糧支援にとりくむこと。

以上